

# 龍角寺古墳群(成田市)

龍角寺古墳群には前方後円墳、円墳などの古墳が多数展開している/近くには「古代寺院」龍角寺跡がある



←龍角寺跡

←浅間山古墳



←資料館

←みそ岩屋古墳

←岩屋古墳

←101号墳

復元古墳である101号墳→岩屋古墳→みそ岩屋古墳→資料館前の108号墳の石室、瓢塚41号墳の石室→浅間山古墳と巡ってみる



→  
101号墳

↑  
岩屋古墳

↑  
みそ岩屋古墳

浅間山古墳  
←  
←  
資料館

龍角寺古墳群は房総風土記の丘に所在する



これは復元された101号古墳



説明板

# 竜角寺古墳群 第101号古墳

この古墳は印旛沼を臨む台地の先端部に造られています。当館が昭和59年～61年に保存整備の目的で発掘調査を行い、造られた当時の姿に平成2・3年度に復元整備し、平成4年度から一般公開しています。

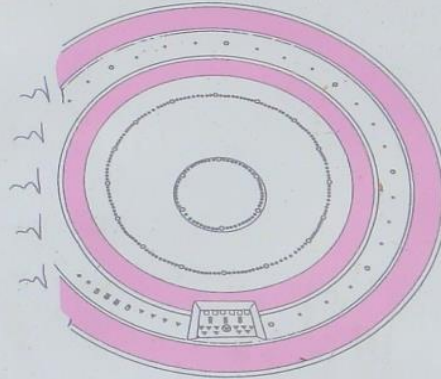
調査の結果、6世紀前半に二重に周溝が巡らした円墳として造られ、遺体の収められた埋葬施設は墳頂部に木製の棺を埋めたもので、鉄製の刀(直刀)・鉄製の矢じり(鉄鏃)・馬の鞍などに装着する道具(馬具)などが副葬されていました。

また、墳頂部と墳丘の裾部には円筒埴輪や朝顔形埴輪が並び立てられていたことがわかり、二重に巡る周溝の間にある土手(中提)とその一部にあった張り出し部には、それらに加えて家形埴輪、馬・鹿・犬・猪・水鳥で構成される動物埴輪や、男性(兵士を含む)・腕を捧げる女性、盾を持つ兵士の形象埴輪が列をなして立てられていたことが推測できました。

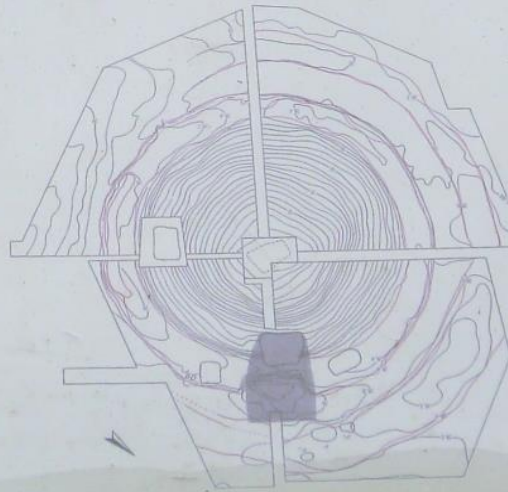
この古墳は、その後、周溝の中に箱式石棺などの別の埋蔵施設を設けた後、墳丘中絶に新たに箱式石棺の埋葬施設が設けられます。

更に6世紀末になると、墳丘の裾部分に新たな箱式石棺が設けられるとともに、二重周溝の内側の一部を埋めて張り出し部をつなくことによって古墳の形を変化させ、小規模な「造りだし」を待つ円墳としました。

見つけた埴輪の実物資料は、資料館に展示してあります



- 築造当初(6世紀前半)の想定図
- 人物埴輪
  - ⊙ 家形埴輪
  - ◆ 動物埴輪
  - 円筒埴輪
  - 朝顔形埴輪



墳丘測量・発掘調査実測図

墳丘径(盛り土の直径)	24.1m
墳丘高( " の高さ)	3.6m
周溝外縁径(外側周溝の直径)	44.0m
改築後の全長(全体の規模(改築後))	30.5m

二重の周溝をもつ円墳/6世紀前半の築造/6世紀末には内側の周溝の一部を埋めて「造りだし」として使われたと云う/正面が「造りだし」部分



それでは岩屋古墳(105)→(104)→みそ岩屋古墳(106)→(107)→資料館へと進もう

→  
101号墳



↑ 岩屋古墳

↑ みそ岩屋古墳



まず、前方は岩屋古墳/説明板が立っている





## 国史跡 龍角寺古墳群・岩屋古墳

いわやこふん りゅうかくじ ごうふん

### 岩屋古墳（龍角寺105号墳）

時期/7世紀中頃 墳形/方墳 一辺/7.8m 高さ/13.2m 三段築成  
埋葬施設/切石積横穴式石室東西2室（貝化石を含む軟質砂岩、天井一部が筑波山系片岩）

指定年月日 昭和16年1月27日  
追加指定年月日 平成21年2月12日

古墳時代終末期の方墳としては、全国第1位の規模を誇ります。龍角寺古墳群中、最後の前方後円墳である浅間山古墳（龍角寺111号墳）に後続して築造されたと推定され、龍角寺の創建に係り、後の埴生郡司につながる印波国造一族の墓と推定されています。また、平成20年1月に行われた測量調査では、石室が開口する墳丘南側の崖面に、古墳築造時の土壌層が侵入路或いは古墳完成後の墓道、祭祀場に利用されたと考えられる舌状突出地形の存在が確認されました。

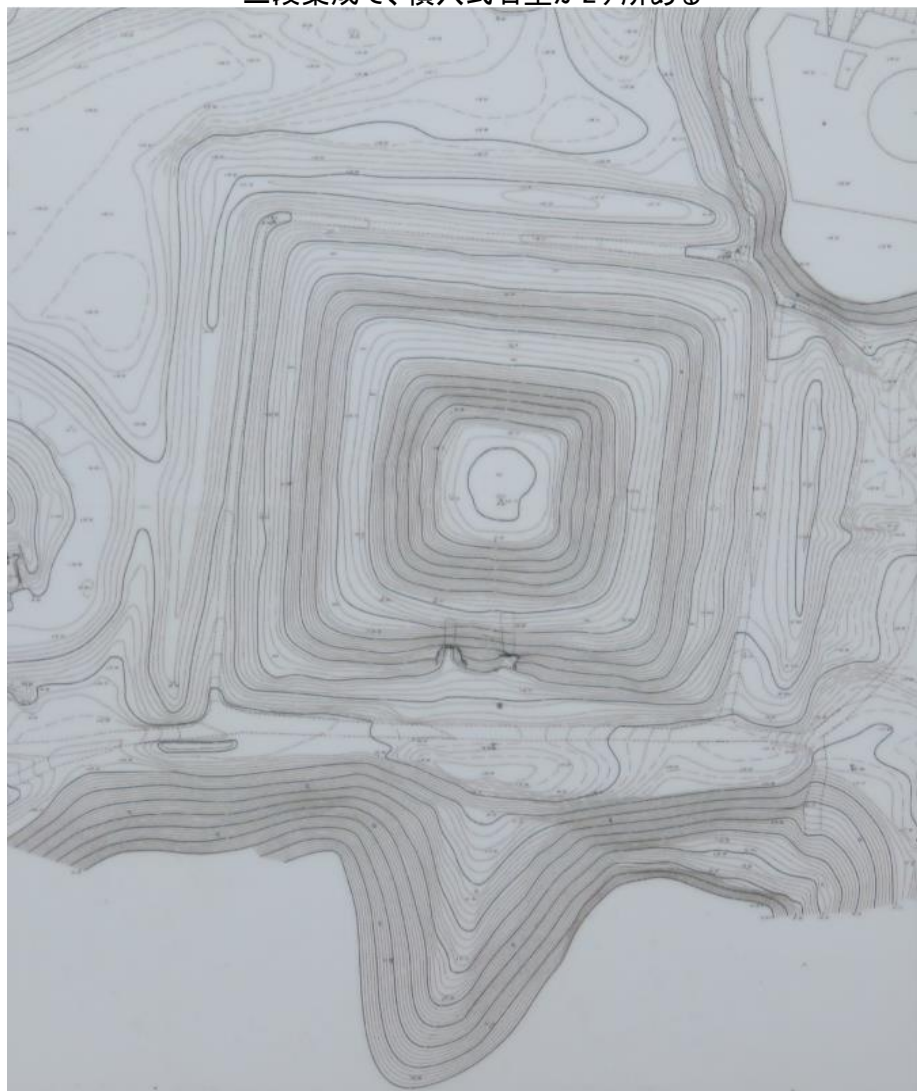
岩屋古墳の存在は古くから知られており、天正19年の「下総国埴生庄龍角寺之郷水帳」によれば、すでに岩屋が築造されていたことがわかります。また、龍角寺の七不思議のひとつとして、三ヶの岩屋の隠れ座頭の枕貸し伝説が残されています。

これまでの墳丘部のみが国史跡に指定されていましたが、龍角寺や埴生郡衙推定地など、古代国家形成期における東日本の景観を残す遺跡群の歴史的意義に鑑み、周辺地形を含む龍角寺古墳群・岩屋古墳として追加指定及び名称変更により、千葉県で最も広い面積の国史跡となりました。

埴生郡教育委員会

※この国史跡は、千葉県文化支援・保存事業として、埴生郡教育委員会と埴生郡の協力で設置されました。

三段築成で、横穴式石室が2ヶ所ある



正面が岩屋古墳

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



正面中央が西石室/右手の崩落した石で塞がれている所に東石室がある



そこで左手を見たところ/左奥の茂みの中に104号墳(方墳)が所在するようだ



同じく右手を見たところ/左手の崩落した石で塞がれている所が東石室



## 西石室の説明板

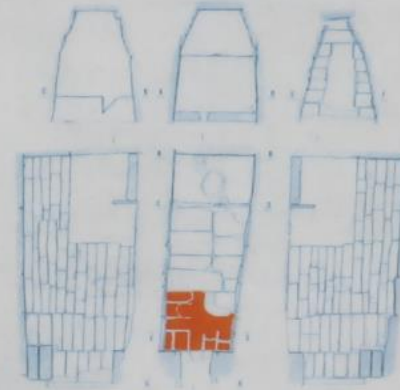
### 岩屋古墳



上：石室正面（平成25年度 第3次調査より）

石室は、切石積みの横穴式石室です。奥行は4.8mを測り、東石室より若干狭くなっています。使用する石材は、奥に取り付けられた棺台・壁・床の一部・天井石の一部は成田貝層といわれる、貝化石を含む軟質砂岩で作られています。棺台の仕切り、天井石の手前2枚は筑波山系の片岩が使用されています。本石室は、平成25年度に発掘調査を実施しました。調査の結果、その2種類の石材の他に新たに貝化石を含まない軟質砂岩の床石が確認できました。これにより3種類の石材で石室を構築していることが分かりました。また、筑波石は遺体を納める場所や入口、さらに入口に近い天井など人の目に触れる大事な場所に利用しているようです。その他にも、切石の壁を積み上げる際にはまるで現代のブロック塀を作るときと同じように石と石の間に白色粘土を詰めています。隣の東石室との共通点は、入口付近の両側に「八」の字に開く筑波石を立て、短い羨道せんどうをもつことがあげられます。相違点としては、玄室に入るためにまたぐように設置されたしみいし隅石が西石室では見られません。これは東石室で行われた追葬が西石室でみられず、構造の改変も行っていないことを示唆しています。

### 西石室



上：石室測量図（赤：新たに発見した床石） 下：検出状況写真



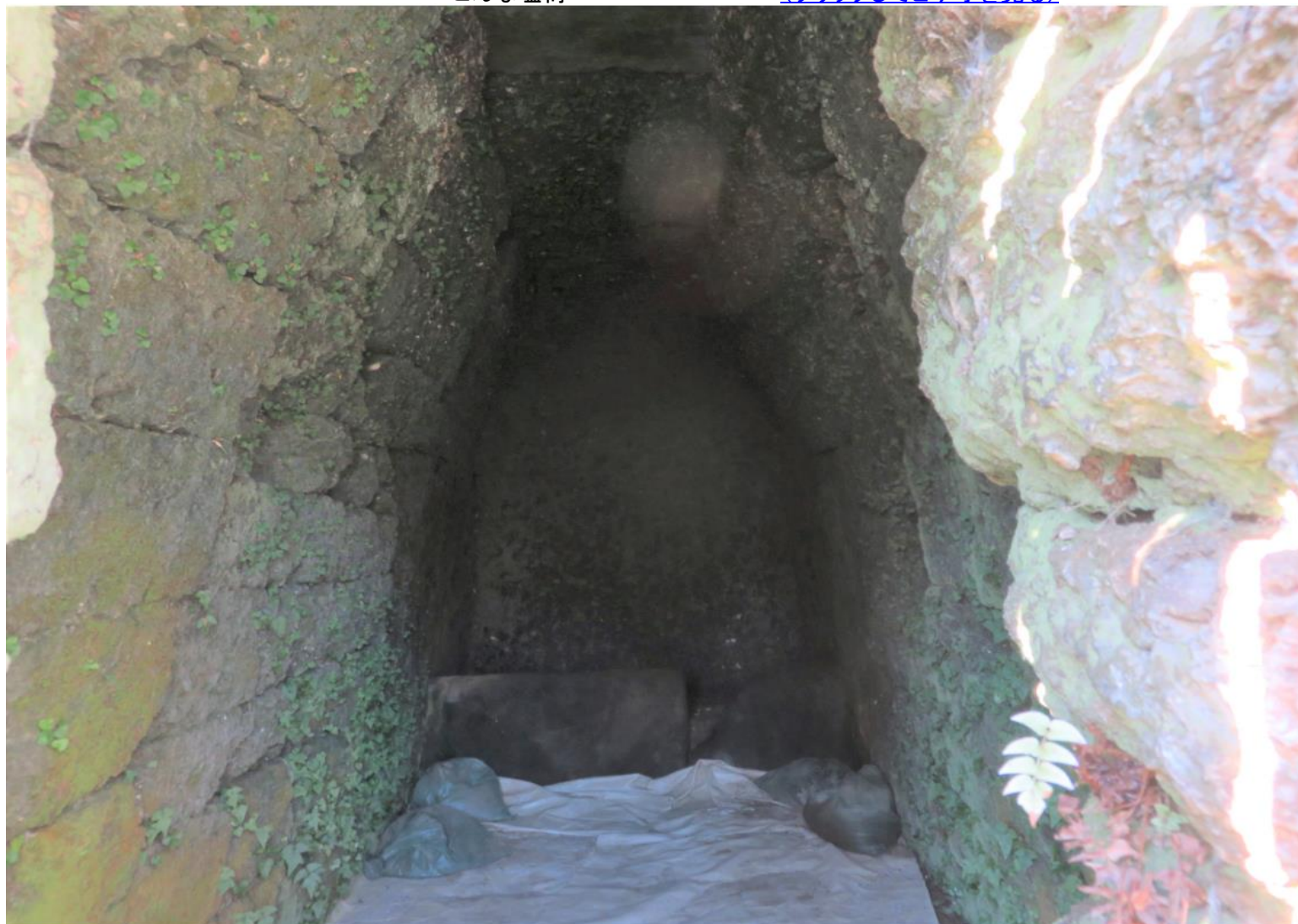


それでは石室内を覗いてみよう



こんな塩梅

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手が東石室、左手が西石室



こちらが東石室



## 岩屋古墳



上：石室正面（平成23年度 第1次調査より）

石室は、切石積みの横穴式石室です。奥行は6.5mを測り、西石室より若干狭くなっています。使用する石材は、奥に取り付けられた棺台・壁・天井石の一部は成田貝層といわれる、貝化石を含む軟質砂岩で作られています。入口近くの天井は筑波山系の片岩が使用されています。この天井石は大正13年に発生した関東大震災で一部が内部に崩落したと言われています。本石室は平成23年度に石室の前庭部を、25年度に天井部分の発掘調査を実施しました。調査の結果、石室内部は山砂が充填されており、中に入れない状態になっていることが確認されました。石室の構造は、入口の両脇に筑波石を「ハ」の字状に立て、短い溝道

が設けられています。また前庭部には「闕石」という中に入る為になまぐ石があり、さらにそれを檀状に整形し筑波石の割石が敷設されていました。これは追葬を行うために石室の構造を改変したためと考えられます。この改変は西石室では見られず、古墳の2基の石室のうち最後まで利用されたのは東石室と思われる。さらに25年度に行った天井部分の調査では、石室の石を白色粘土がくるむように覆う「裏込め」という状態が確認されました。これは雨等の侵入をできるだけ避けるのと同時に石室の補強のために行われたと考えられます。

## 東石室



上：石室測量図

下：天井石及び側石検出状況



南東角で墳丘を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ





これは北西の角で墳丘を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、前方に見えるマウンドはみそ岩屋古墳(106号墳)



近づいて見たところ/手前の一寸したマウンドに石碑が立っている/南西側から見たところ



南側から見たところ/ブルーシートが見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



辛うじて岩屋古墳(106号墳)であることが分かる/ブルーシートは横穴式石室の入口を覆っているようだ



台形に近い形をした方墳で、周囲には5～6mの周溝が巡っていたと云う/墳丘の南東斜面に両袖型横穴式石室が開口している/石室は、岩屋古墳と同様に貝の化石を多量に含んだ凝灰質砂岩の切石を巧みに互目積みしたものらしい





東側から見たところ



北東側から見たところ



これが南西側の一寸したマウンドに立っていた石碑/このマウンドも古墳なのか？



その右手に目をやると、同じような小さなマウンドが幾つもある



更にその右手にも・・・/正面のマウンドにも石碑が立っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これはそのマウンド越しに岩屋古墳(106号墳)を見たところ



そこで左手を見ると、小さなマウンドの先にかかなり大きなマウンドが見える



アップで見たとこ





右手から見たところ/これは107号墳のようだ



左手から見たところ



その更に左手にはこんな感じのマウンドが・・・



そこから107号墳(正面)の方向に振り返ったところ



風土記の丘資料館

浅間山古墳



ここが資料館





資料館の前に石室が並んでいる





左手の瓢塚41号墳の石室







## 瓢塚 41号墳石室



瓢塚41号墳平面図

現在の成田ニュータウン内、加良部にあった古墳の石室です。

この古墳は、<sup>ひまじりか</sup>瓢塚古墳群48基のうちの1基で、開墾などで削られていましたが、昭和45年5月に発掘調査した結果、東西辺17.2m、南北辺20mの方墳でした。

この石室では、雲母片岩などの板石(18枚)を組合わせて、玄室と羨道がつくられ、副葬品として須恵器、直刀、<sup>てつせん</sup>鉄鏃などが納められていました。終末期古墳の埋葬施設の一例です。

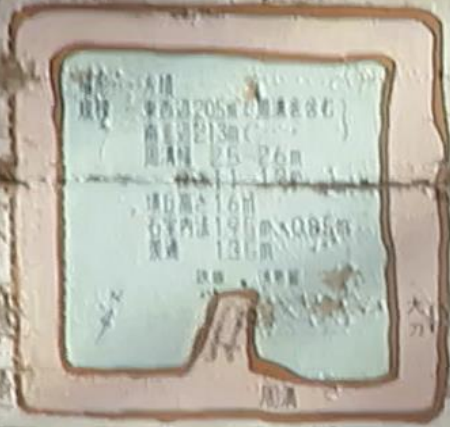
右手の108号墳の石室







# 竜角寺古墳群第108号古墳石室



復元平面図

昭和55年9月、県道・成田-安良線の建設工事に関連して発掘調査された古墳の石室を復元したものです。

この古墳は、古墳群終末期の方墳(方)岩屋古墳をはじめ、同じ古墳群内の5基の方墳との関係が注目されています。

石室内には副葬品はみられませんでした。東側周溝の土塚中から直刀一振と石室附近から須恵器の壺、鉄銚が出土しています。



さて、これはそれらの右手に所在する78号墳/円墳



その左下には「方墳の石室に使われた貝化石の石」と記された表示と石があった ([クリックしてビデオを見る](#))



資料館の周辺には小規模な古墳が幾つもあり、群集墳として龍角寺古墳群を形成している/これは84号墳/前方後円墳/  
表示板のデザインが墳形を表している



82号墳/表示板のデザインの通り、円墳



81号墳/円墳



80号墳/円墳



55号墳/円墳



57号墳/前方後円墳





さて、ここから龍角寺跡方面に所在する浅間山古墳へと進もう



この道は白鳳道と呼ばれる



はく                      ほう                      どう  
白                      鳳                      道

この道は、<sup>りやうかくし</sup>竜角寺の正面から南へまっすぐにのびてきた道です。ここから北へ進むと、小さな谷を渡って、<sup>せんげんやま</sup>浅間山古墳を左に見ながら、約1kmで竜角寺に達します。

気をつけて歩いてみると、この道が、自然の地形を利用しないで、森や古墳群の間を、南北一直線に竜角寺に続いていることがわかります。白鳳時代（7世紀後半～8世紀初め）に竜角寺が建てられたときから使われていた道と考えられます。

この道の両サイドにも古墳が散在する



67号墳/円墳



69号墳/円墳

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



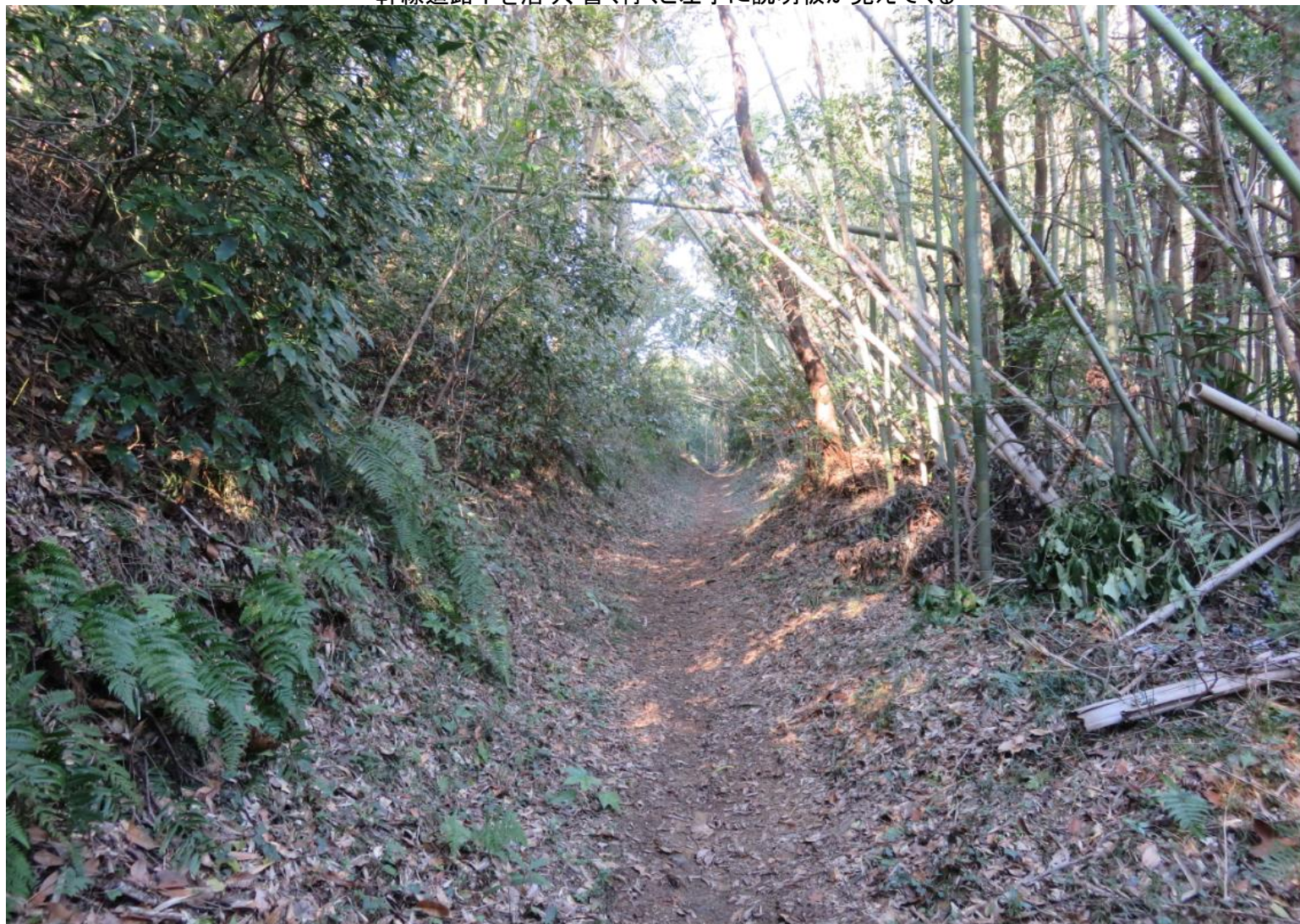
75号墳/前方後円墳



ここから更に龍角寺跡方面に進み、浅間山古墳を目指す



幹線道路下を潜り、暫く行くと左手に説明板が見えてくる





正面の上部が浅間山古墳の後円部



浅間山古墳(龍角寺古墳群111号墳)の説明板/前方後円墳/7世紀前半の築造



## 国史跡 龍角寺古墳群・岩屋古墳

せんげんやまこふん りゅうかくじ ごうふん  
**浅間山古墳 (龍角寺111号墳)**

時期/7世紀前半 墳形/前方後円墳 全長/77.6~78.0m  
前方部/幅5.8m 高さ/7.2m 後円部/径5.2m、高さ8.0m 三段築成  
埋葬施設/板石組横穴式石室 (筑波山系片岩)

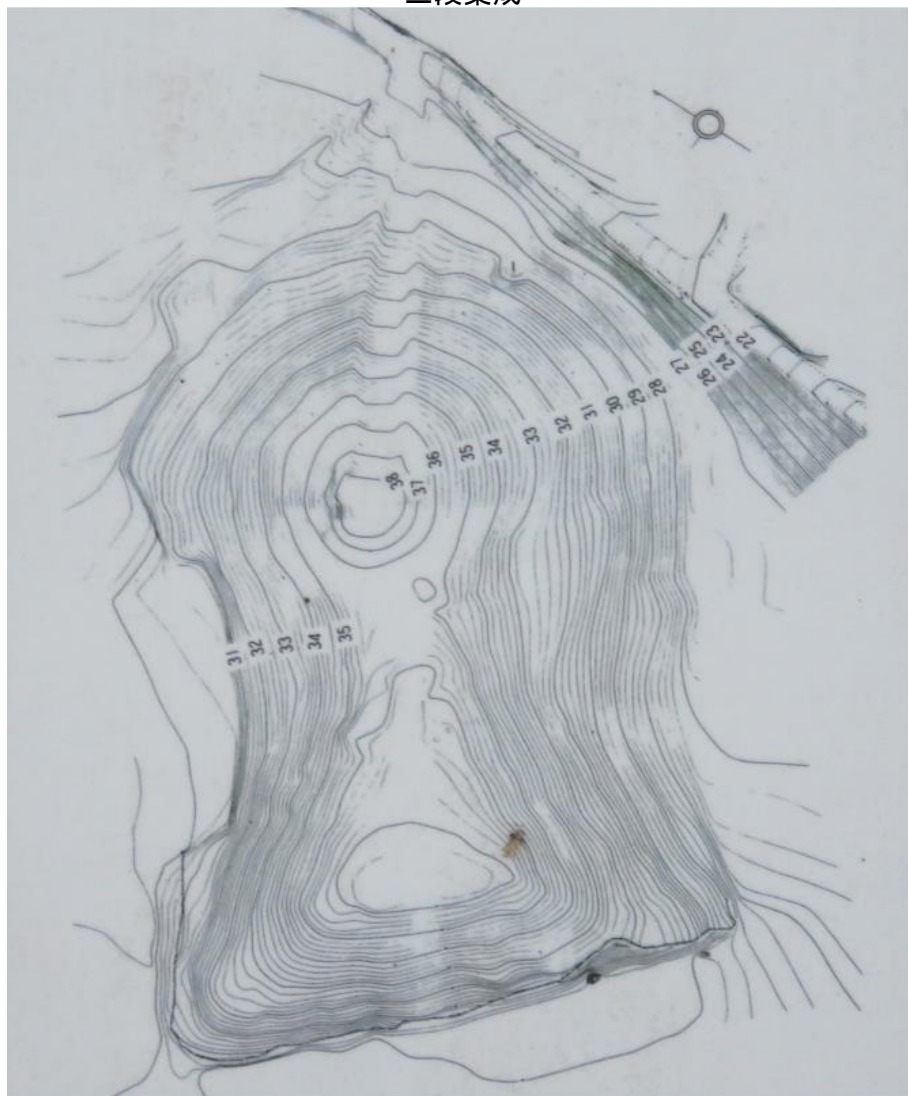
指定年月日 平成21年2月12日

龍角寺古墳群の中で最大、そして千葉県内でも最も新しいと考えられる前方後円墳です。平成8年度に実施された発掘調査の結果、平安時代に盗掘されているものの、複室構造の板石組横穴式石室に漆塗木棺が安置されていたことが判りました。また、金銅製冠飾、銀製冠、透かし彫り飾り金具等の装身具類、銀装振り環頭大刀、小刀、金銅製環付足金物大刀、金装弓、鉄鏃等の武器類、鉄製挂甲小札、胡籙金具馬具、刀子、斧、釘等、貴重な遺物が数多く出土し、平成21年3月17日には浅間山古墳石室出土遺物として千葉県の有形文化財(考古資料)に指定されました。

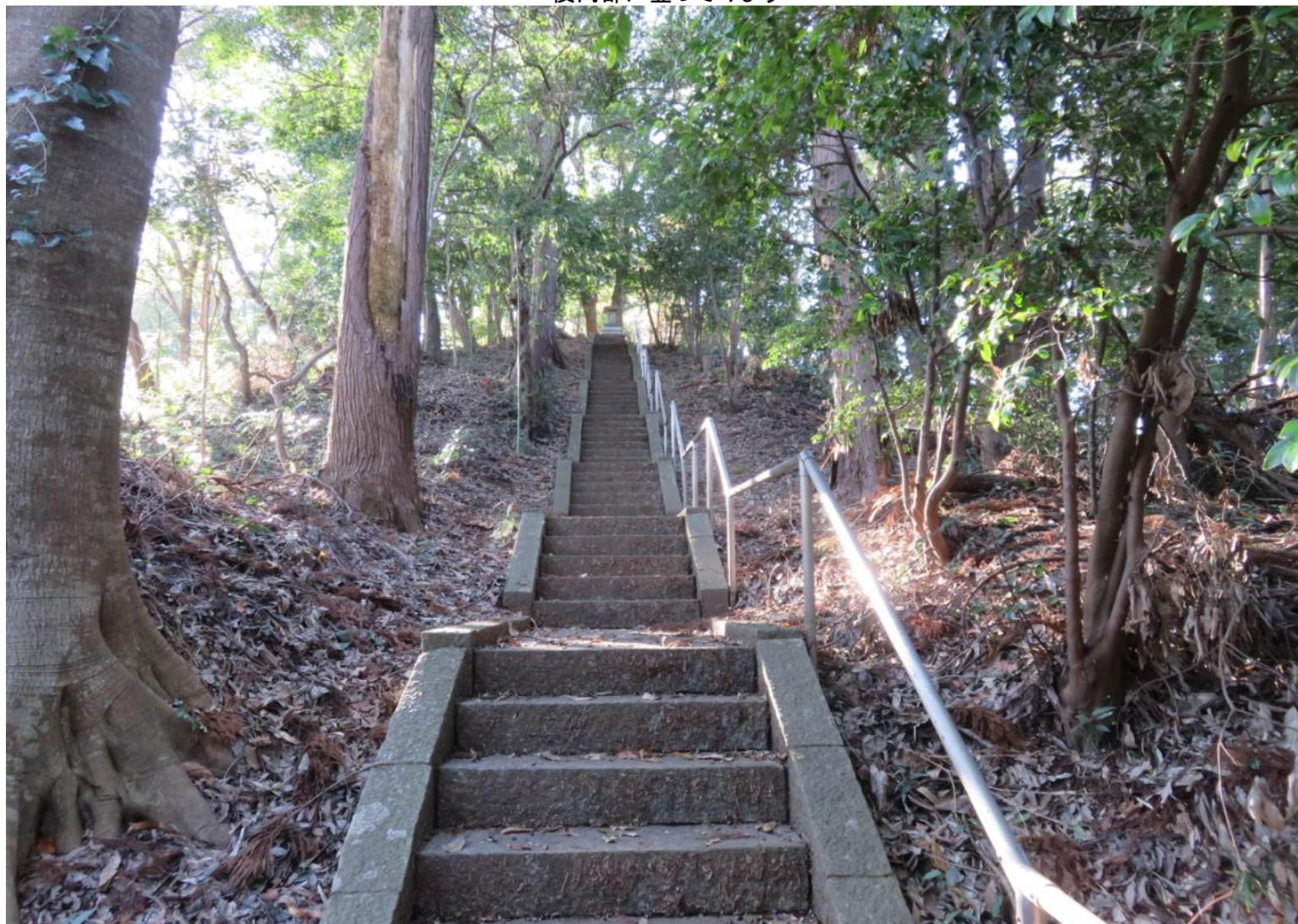
石室に用いられた筑波山系片岩は、今の利根川から霞ヶ浦にかけて広がっていた香取の海を利用した水上交通でもたらされたものと思われ、切石積の岩屋古墳とは異なりますが、石室の構造が類似していることから、浅間山古墳は岩屋古墳に先行して築造された首長墓と考えられています。

栄町教育委員会

三段築成



後円部に登ってみよう



左手を見たところ/こちらを回り込んで行くと横穴式石室があるらしいが、埋め戻されて見られないそうだ



右手を見たところ/こちらには小社が見える



こんな塩梅



境頂に石塔が見える





このレベルは後円部の墳頂に盛土をしているらしい



振り返って登って来た方向を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは後円部の墳頂に盛土した所から前方部方向を見たところ



これは後円部左手から前方部方向を見たところ



後円部辺りからくびれ部、前方部を見たところ



正面が前方部墳頂



前方部からその先を見たところ



そこで振り返って後円部方向を見たところ





前方部からくびれ部、後円部を見たところ



くびれ部左手を見たところ



同じく右手を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、これは資料館に展示されているキャプション

印旛郡栄町龍角寺  
浅間山古墳

The Sengeniyama burial mound at Ryukakuji in Sakae-machi, Inba-gun

龍角寺古墳群で、最大にして最後の前方後円墳  
The biggest and last keyhole-shaped burial mound in the Ryukakuji burial mounds.

墳丘長 length of mound	7.8 m
後円部径 diameter of rounded rear part	5.2 m
前方部幅 width of square front part	5.8 m
墳丘の高さ height of mound	7 m

墳丘断面図 cross section of mound

[印旛郡栄町浅間山古墳発掘調査報告書] 2002 千葉県 より

浅間山古墳の横穴式石室展開図

Construction of the corridor-style stone chamber in the Sengeniyama burial mound

1 奥壁 Back wall  
2 側壁 Exterior wall  
3 石棺 Stone coffin  
4 後室 Back room  
5 後室玄門 Entrance to the back room  
6 前室 Front room  
7 前室玄門 Entrance to the front room  
8 しきみ石 Boundary stone of the chamber  
9 羨道 Passageway to the chamber  
10 まくさ石 Lintel stone  
11 門柱石 Gate stone

[印旛郡栄町浅間山古墳発掘調査報告書] 2002 千葉県 24

同じく、浅間山古墳の横穴式石室のレプリカ



## 参考ホームページ

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2016/08/25/000000>

<https://www.haniwakan.com/kenkyu/boso/sakae.html>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/龍角寺古墳群>

<http://inoues.net/ruins/bousou.html>

<https://bunkaisan.exblog.jp/26830468/>

<http://www.inba.or.jp/genti/iwaya01.html>

<https://history.midoriit.com/2011/02/龍角寺古墳群.html>

<http://kamaoaki.blog.fc2.com/blog-entry-435.html>

<http://obito1.web.fc2.com/ryuukakuzinaka.html>

<http://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-647.html>

<http://kohunist.choitoippuku.com/龍角寺古墳群.html>

<https://plaza.rakuten.co.jp/ja11spikel700/diary/201711160002/>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/chiba/sakae/bousou.htm>

<https://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2018/03/03/000000>

<https://ameblo.jp/0131nobnob/entry-12424744778.html>

<http://blogarea.jp/okamoto.n/index.php?itemid=734&catid=16>

<http://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-659.html>

<http://kamaoaki.blog.fc2.com/blog-entry-433.html>

<https://blog.goo.ne.jp/rekishi-nazo/e/6f4b217cb363fe9b12fec1ac06bc855b>

<http://www7b.biglobe.ne.jp/toho-corporation/linkchibaken-ryukakujikofungunnitsuite.html>

<http://kohunist.choitoippuku.com/竜角寺古墳群%E3%80%80浅間山古墳.html>

<https://kofun.dosugoi.net/e1050503.html>

[http://kofunnomori.web.fc2.com/chiba/sakae/ryu111\\_sen.htm](http://kofunnomori.web.fc2.com/chiba/sakae/ryu111_sen.htm)

<http://obito1.web.fc2.com/ryuukakuzinisi.html>

